2020/08/25 ISHINO Hotaka

「檄文」あるいはパンデミック以降の諏訪清陵高校/同窓会に向けて

78回生　石埜穂高

フリーランスプランナー・クリエイター

スワニミズム編集長

NPO法人Jomonism理事

1. コロナ禍は「歴史の変わり目」である

このたびのこの厄災の最大の特徴は、世界の人類があまねく大きな影響を受けているということだ。影響を受けていない余地や逃げ場は、地球上のどこにもない。そして、IMFが公式に「世界経済が今年、大恐慌以来最悪の景気後退を経験する可能性はきわめて高い」と予測しているとおり、経済の危機は、ウィルスそのものの影響をさらに上回る大きな混乱を人類社会にもたらすはずである。

このことはすなわち、我々が百年に一度の大きな変化のさなかにあるということである。我々は、単なる時代の変わり目にいるのではなく、「歴史の変わり目」にいることを強く自覚しなければならない。このコロナ禍によって、経済成長というあり得ない神話に煽り立てられてきた「モダン社会」が終わるのである。

2. 歴史の変わり目に求められる諏訪的思考

歴史の変わり目には、それまでの「常識」が通用しなくなる。会社のあり方、学校のあり方、地域社会のあり方、国家のあり方、国際社会のあり方がみな大きく変わり、すべて「自分の頭で一から考える」必要が出てくる。そしてこれこそが、諏訪人と諏訪中・諏訪清陵高校生の最大の特質であるはずだ。

地勢的に日本列島のヘソに位置する諏訪は、本州最大の黒曜石鉱山を開発した旧石器～縄文時代以来、情報交流の中で「自分の頭で一から考える」文化を育んできた。古代から中世への変わり目には、武士階級の信仰的中心として。中世から近世への変わり目には、寒天・海苔・立川流に代表される交易産業の拠点として。近世から近代への変わり目には、わが国最初の近代産業たる製糸業の最大拠点として。そして近代から現代への変わり目には、精密・光学・電子産業への転換を遂げることで、山間の小盆地として他に類例を見ない重要な役割を、途切れることなく演じ続けてきた。そして、近現代においてそうした諏訪的思考の中心的役割を果たしてきたのが、三沢勝衛教育を核心とする諏訪中・諏訪清陵高校であったことに疑いの余地はない。

３．清陵教育／高校教育の衰退

しかし、今般のコロナ禍の以前から、清陵教育は衰退の様相を呈していた。同窓生諸氏によく知られた現象として、地方会の廃止や、中学生の域外流出と有名大学進学者数の減少、それに対応する中高一貫校化が挙げられるが、問題の核心はそこではない。大学受験技術偏重と管理重視の教育により、教師も学生も多忙を極め、学生自治と地域研究の伝統が衰退し、結果として「自分の頭で一から考える」文化が失われかけていることだ。

これは、多かれ少なかれ全国共通の課題である。国や保護者や企業や大学や、いわば国民の総意で続けられてきてしまった過ちの結果と言うべきだ。全国均一の管理システムの下、全国均一の偏差値教育が強化されれば、地方の小進学校が大都市の大進学校に太刀打ちできるわけはない。それは、中央集権の均質社会システム

による地方のアイデンティティ剥奪――諏訪が「普通の田舎に成り下がる」ことを意味している。

諏訪清陵高校の特色は、そうした社会の流れに抗い、旧制中学名残のバンカラ気質によって地域の風土に全力で向き合いながら、大学がなかった地域ゆえに、大学に代わって地学・生物学・考古学などの地域研究を担ってきたことではなかったか。それが「自分の頭で一から考える」ことではなかったか。

4. コロナ禍で得られた気づき

身近な気づきは、同窓会活動は地域に限定されるものではない、ということだ。リモートであれば、諏訪や東京はもちろん、世界のどこにいても会合や勉強会に参加できる。また、その気になれば、学生や教員や父兄の参加も可能で、同窓会活動の範囲はいくらでも広げることができるのだ。

より重要なのが、リモートワーク・リモート授業の一般化による気づきである。まず、集中勤務・集中教育という「常識」が相対化されている。さらに言えば、会社・学校という存在そのものも相対化され始めている。働く・学ぶ意欲と能力が高い人は、仕事や学びのリソースを単一の会社や学校だけに頼る必要はさらさらない。リソースは会社や学校に限らず、どんな形態でもよく、また世界中のどこにあってもいいのである。

5. 同窓会活動をどうすべきか

同窓会には、同窓生の「懇親」と母校の「後援」という2つの役割がある。今は大規模な「懇親」行事をリアルに開催することができないが、だからこそ「後援」に全力を注ぐべきである。教育の「常識」が大きく変わろうとしている今、なすべきことは同窓生＝諏訪人ならではの「知」を、広く母校と郷土に提供することだ。

具体的には、まずこれまで180回開催されてきた清陵勉強会の、ネットセミナーとしての拡大開催である。拡大対象は、まず現役学生。しかしさらに、その父兄や教員、一般市民、ひいては国際社会にまで広げていくべきだ。なぜなら、これまで清陵勉強会によって知り得た同窓生の「知」のあり方は、1万年以上にわたって歴史の変わり目を生き抜いてきた諏訪人の「知」のありかたであり、後輩学生ばかりでなく、パンデミック以降の人類社会全体に強い指針を示す価値を持つものと考えるからである。

6. ネット諏訪大学へ

この試みを、ただの試みに終わらせてはならない。先に見据えなければならないのは、諏訪から始める教育の改革である。リモートを活かした学びの選択肢の拡大による、画一的な受験技術教育・管理教育からの解放を。地域に根差した、地域ならではの考える力、生きる力の醸成を。そして、その学びを地域の中で生涯の学びに結びつけ、三沢勝衛・藤森栄一らの伝統を受け継ぐ最高水準の在地の学問の実現を。

それは、旧制諏訪中の歴史に根差した新たな旧制諏訪高等学校――諏訪大学の歴史の始まりである。

同窓生諸氏のネットセミナー出講に、セミナーのアーカイブ化に、リモートラーニングサイト構築に、書籍・教材出版に、「知」の結集に期待したい。

参考：「諏訪力講座」について

●開催趣旨

諏訪の歴史・文化・社会・産業などを新たな視点で見つめ直し、その中から「諏訪力」と言い得る価値観を抽出して、私たちが進むべき未来を見通すことを目的とした一般対象の公開講座。78回生が当番幹事であった同窓会本部総会での発表、「諏訪力――世界を変える僕らの原点」を契機にスタートした。交互に隔月開催している「三澤先生記念文庫連続講座」が自然科学の講座であるのに対して、本講座は人文科学の講座にあたる。2017年度から昨年度まで、SSH指定により科学技術振興機構の支援を受けた（終了）。毎回石城元校長がマネジメントを行い、石埜がファシリテーターとして同窓生中心にゲストをお招きし、オリジナルのオンスクリーンコンテンツを作成・使用して対談を行っている。

●主催

旧制諏訪中学校・諏訪清陵高校同窓会 三澤先生記念文庫運営委員会（解散）

●会場

附属中学校 中学生棟1F講義室を中心に、内容に応じ諏訪市文化センター、茅野市民館など

●収録・放送

地元CATV局・LCVが収録、1回1番組として放送（不定期。再放送・集中放送あり。収録済DVDあり）

●これまでの開催内容（カッコ内はゲスト）

第1回　2014年9月13日　「序説・ズクの３万年王国」（石埜穂高）
第2回　2014年11月8日　「製糸王国からものづくり王国へ」（山崎壯一）
第3回　2015年1月25日　「縄文の丘――清水ヶ丘と二葉ヶ丘」（高見俊樹）
第4回　2015年3月21日　「御田町――時代の先端を走る商店街」（原まさひろ）
第5回　2015年5月10日　「善光寺の基層――信濃全域の諏訪信仰」（石埜三千穂）
第6回　2015年7月19日　「諏訪響――国内最古の市民交響楽団」（武井勇二＋丸茂洋一）
特別講演会　2015年8月30日　「縄文農耕論・図像学の未来」（武藤雄六＋武居幸重）
第7回　2015年9月26日　「星ヶ塔――黒曜石が明かす縄文の実力」（宮坂清）
第8回　2015年11月21日　「地上最強？ LCVの御柱実況中継」（伊藤敏昭＋小林秀美）
番外編フィールドワーク①　2016年1月23日　「水眼の源流に行こう」（石城正志）
番外編フィールドワーク②　2016年3月20日　「小坂観音院春分特別拝観」（中島宥明）
出張講座　2016年6月4日　「諏訪圏外の御柱――その驚くべきバリエーション」（石埜三千穂＋坂間雄司）
番外編フィールドワーク③　2016年7月23日　「杖突峠旧道を下る」（石城正志）
番外編フィールドワーク④　2016年9月22日　「星ケ塔遺跡へ行こう」（宮坂清）
第9回　2016年12月10日　「真澄の生きる道・諏訪人の生きる道」（宮坂直孝）
特別講演会　2017年1月21日　「諏訪考古学の原点」（武藤雄六＋五味一郎＋高見俊樹＋三上徹也）
第10回　2017年4月29日　「立川流ビジネスモデルと諏訪力」（五味 光一）
第11回　2017年6月25日　「松澤宥――諏訪という前衛空間」（嶋田美子＋藤森耕英＋青木英侃＋井出賢一）
第12回　2017年8月26日　「ミシャグジの謎に迫る」（守矢早苗＋石埜三千穂）

第13回　2017年11月26日　「井戸尻――百姓と高校生の考古学」（小林公明）
第14回　2018年1月21日　「エプソンとすかいらーく」（山崎壯一＋横川紀夫）
第15回　2018年2月12日　「御渡――諏訪信仰の根源」（宮坂清＋石埜三千穂）
第16回　2018年5月20日　「テンホウに見る諏訪力」（大石壮太郎）
第17回　2018年7月7日　「諏訪の神体山＝御射山の力」（原直正）
第18回　2018年8月25日　「ギネス登録のマイクロロボットが踊る」（宮澤修＋田中操）
第19回　2018年10月20日　「諏訪の女子力」（清陵同窓会女性部共同企画：初期OGの皆さん）
第20回　2018年12月22日　「諏訪仏教の実力」（岩崎宥全＋石埜三千穂）
第21回　2019年2月9日　「諏訪式と諏訪力」（小倉美惠子＋由井英）
第22回　2019年6月29日　「武蔵野美大の諏訪力」（小泉悦夫）
第23回　2020年3月20日　「御柱と諏訪力」（北村皆雄＋高見俊樹）

LCV番組収録DVD▲